

自己評価報告書

平成23年 5月 6日現在

機関番号：12701

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2008～2011

課題番号：20243015

研究課題名（和文） 有機的ヴィジョンの構想力と経済統治のデザイン：
世紀末～戦間期経済思想の国際比較研究課題名（英文） The Organic View of the Society and the Designing of Economic
Governance: comparative research of the economic thought from the
fin-de-siècle to the inter-war period

研究代表者

深貝 保則 (YASUNORI FUKAGAI)

横浜国立大学・経済学部・教授

研究者番号：00165242

研究分野：経済思想史

科研費の分科・細目：経済学 経済学説・経済思想

キーワード：有機的ヴィジョン、社会進化論、経済統治、新自由主義、世紀末、戦間期

1. 研究計画の概要

19世紀後半以降、T.H.グリーンやデュルケムなど、互いに性質を異にする有機体的な社会観が台頭した。また、ダーウィンやスペンサーの進化論およびガルやピアソンの優生学は、20世紀初頭にかけて欧米のみならず日本や中国において社会構想にも影響を及ぼした。本研究課題は有機的ヴィジョンが「知」のレベルにおいて持った意味とともに、経済的な統治における政策的な現われや時代思潮の変容にも着目する。関連領域の欧米の研究者を順次招いて共同研究を推進し、論文集の編纂へと展開する。

2. 研究の進捗状況

欧米の研究者との共同研究を展開する推進方式の具体化として、2009年9月に実施の横断的比較を軸に据えつつ、以下のようにワークショップを展開した。

初年度に、功利主義と19世紀末ブリテンの新自由主義 (David Weinstein)、ジイドにおける連帯と自由主義 (Annie Cot)、ポパーと社会科学の方法 (Karl Mitford)、19世紀末におけるブリテン帝国のデザイン (Peter Cain, Eugenio Biagini) のそれぞれを主題とするワークショップを順次行なった。2009年9月に有機的ヴィジョンと経済統治をめぐる包括的・各国横断的な比較を目的として、Axel Korner, David Ciepley, Hauke Janssen, Elliot Brownlee とともにイタリア、ドイツ、アメリカ、イギリスの世紀末～戦間期思想状況の検討を行なった。2009年9月および12月に、財政および税制を通じた社会的経済的デザインを主題として20世紀前半のフランス、アメリカ、日本を比較する検討を、Martin Daunton, Elliot Brownlee,

Ajay Mehrotra, Frances Lynch らとともに展開した。さらに2011年3月に、アメリカ戦間期の政治的社会的緊張と経済的デザインに焦点を当てて Ross Emmett, David Ciepley とともに検討を行なった。一連のワークショップを通じて、研究代表者、研究分担者も随時報告や討論を担った。これらを通じて、以下の点を中心に掘り下げた。

産業化、都市化、進歩、自由を軸に進んだのが19世紀中葉までの当時の先進国型であって、遅れて近代化した日本などはそれへの追随を目指した。だが世紀末ともなると、とくに英仏など先進ヨーロッパにおいては異なった様相を示すこととなった。まず、都市の肥大化により人々の居住と社会的調和を可能とする新たな場を設けることが必要となった。また、従前には社会の底辺として辺縁的に置かれていた階層の存在感や発言力が高まった。このなかで社会的調和と活力を繋ぐものとして有機的なヴィジョンが、さまざまな形において現実的な力を発揮することとなる。しかし戦間期に至ると、とくに社会統合スキームの束ねる強さの側面が全体主義的な影を落とすに至って、自由との鋭い緊張を呼び起こすこととなった。

3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

世紀末から戦間期に至る有機的ヴィジョンの思想的な射程について検討を進めるに当たって、欧米の当該領域の研究者と多面的な切り口で掘り下げる作業を重ねることができた。研究計画設定当初には思想研究として、有機的なつながりを構想するヴィジョンの重要性を強く意識していたのであるが、そ

の後のリーマン・ショックや震災に示される現実の展開のもとで重要性を帯びている「連帯」、「社会的絆」などは、本研究課題が掘り起こしているいくつかの概念と照応するものである。

4. 今後の研究の推進方策

2011年度が本研究計画の最終年度に当たる。有機的ヴィジョンにとって重要で19世紀末から戦間期にかけても用いられた「連帯 solidarity」、「社会的絆 social bond」など諸概念の存在に留意しながら、包括的に取りまとめるワークショップを数名の欧米研究者を招いて開催する。併せ、思想的課題と現代的要請を繋ぐ切り口のもとで、論文集の構成を具体的に煮詰め、展開する。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計9件)

中山智香子、『マネジメント』の人間主義的功罪、現代思想、vol.38-10、2010、160-171頁、有

中山智香子、非市場型社会の構想：K・ポラニーの二つの「戦後」、社会思想史研究、No.34、2010、37-51頁、無

Kazuhiko Yago, The Anatomy and Pathology of Empire: Three Balance Sheets of Russian and Soviet Banks, Slavic Research Center, Hokkaido University, 2010, pp.61-86, 無

栗田啓子、19世紀フランスの土木エンジニアー公共の利益と経済計算一、SHIGA建設、No.49、2010、5-14頁、無

Giovanni Pavanelli and Chikako Nakayama, Lifelong Friendship: The Correspondence between Oskar Morgenstern and Luigi Einaudi, Storia del Pensiero Economics, No.1, 2008, pp.95-120, 無

[学会発表] (計11件)

深貝保則、ヴィクトリア期の時代思潮における中世主義と古典主義、日本イギリス哲学会、2011年3月29日、京都大学
高哲男、19世紀後半イギリスにおけるニュー・リベラリズムの台頭とダーウィンの進化論 H.スペンサー、T.ハクスリー、D.C.リッチーを手掛かりに、経済学史学会西南部会110回例会、2010年12月11日、九州大学

栗田啓子、ジッド=リストの経済学史一世紀転換期における経済学観の変容一、経済学史学会、2010年5月23日、富山大学

Yasunori Fukagai, Richard T. Ely, Edwin R. A. Seligman and the German Influence to US and to Japan: Political Languages of Land and Taxation Crossed the Oceans, 1880s-1900s, The Political Economy of Taxation in Japan and United States: A symposium on the occasion of the 60th anniversary of the 1949 Mission of Carl S. Shoup to Japan, December 12, 2009, Yokohama National University

Yasunori Fukagai, Liberal Scheme of Welfare and the Idea of Social Justice: From Mill to Hobhouse, International Society for Utilitarian Studies Conference, September 11-13, 2008, University of California - Berkeley, USA

[図書] (計13件)

中山智香子、勁草書房、経済戦争の理論、2010、243頁

Roger Backhouse and Tamotsu Nishizawa (eds.), Cambridge University Press, *No Wealth But Life, Welfare Economics and the Welfare State in Britain, 1880-1945*, 2010, 281p.

深貝保則、日本経済評論社、自由と公共性一介入的自由主義とその思想的起点一、2010、253-284頁(「ウェルフェア、社会的正義、および有機的ヴィジョン」を執筆)

矢後和彦、蒼天社出版、国際決済銀行の20世紀、2010、349頁

Yuichi Shionoya and Tamotsu Nishizawa (eds.), Edward Elgar, *Marshall and Schumpeter on Evolution: Economic Sociology of Capitalist Development*, 2008, 285p.